

平成30年度 支え合うきよせ委員会 第3回
(清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体) 会議録

- 1 開催日時 平成30年11月20日(火)午後1時30分から午後2時30分
- 2 開催場所 清瀬市役所 第1・2委員会室
- 3 出席者 平成30年度第3回支え合うきよせ委員会 出欠席名簿の通り

4 次第

- (1) 開会・挨拶
- (2) 配布資料の確認

次第

- ・ 資料1 支え合うきよせ委員会 委員名簿
- ・ 資料2 平成30年度 支え合うきよせ委員会 第2回会議録(案)
- ・ 資料3 平成30年度 地域資源・ニーズ把握部会 第4回記録
- ・ 資料4 平成30年度 個人情報勉強会検討チーム 第1回記録
- ・ 資料5 平成30年度 個人情報勉強会検討チーム 第2回記録
- ・ 資料6 平成30年度 高齢者110番チーム 第1回記録
- ・ 資料7 平成30年度 高齢者110番チーム 第2回記録
- ・ 資料8 平成30年度 高齢者110番チーム 第3回記録
- ・ 資料9 平成30年度 支え合いバックアップ部会 第5回記録
- ・ 資料10 平成30年度 支え合いバックアップ部会 第6回記録
- ・ 資料11 平成30年度 支え合いバックアップ部会 第7回記録
- ・ 資料12 支え合うきよせ委員会スケジュール(平成30年度)

(3) 新規委員紹介

事務局より、新規委員について紹介。

所属機関、選出区分等	新任	前任
清瀬商工会	澁谷委員	内野委員

(4) 報告

ア 前回本会議事録

鍵和田生活支援コーディネーターより、資料2について報告があり、承認。

イ 各部会報告・意見交換

① 地域資源・ニーズ把握部会(A部会)

内田部会長・田中副部会長より、資料3～8を用いてA部会、個人情報に関する勉強会チーム、高齢者110番チームの議論の経過と状況について報告。

◆個人情報に関する勉強会

11月17日(土)にアミューホールにて実施。参加者は合計42名(スタッフが11名)。個人情報保護委員会の講師を招き、個人情報保護法の

概要や実際の取扱いなどの具体的なことを学ぶ。限られた時間であったため、参加者によっては説明のスピードが早かったとの意見も聞かれたが、個人情報や学ぶ機会として勉強会を開催したことはよかった。学校の保護者などの若い層も参加しており、名簿づくりなど課題となっていたことがすっきりしたとの意見も聞かれた。アンケート結果によれば、かなりの方が満足いただけたようだが、勉強会の時間内では個別具体的な課題解決とまでは至っていないため、今後の課題。

◆高齢者 110 番

これまで3回集まって意見交換を実施したが、詳細は詰め切れていない。中間まとめの内容は資料8を参照。

② 支え合いバックアップ部会（B部会）

柳原部会長より、資料9～11を用いてB部会の議論の経過と状況について報告。

◆支え合い体験会

支え合いの取り組みを理解していただけるよう、市内全域で実施中。実施を通して、支え合いがどういうものかを理解していただいていると実感。

◆空きスペースの活用について

本音はホームページなどで空きスペースの募集などを行いたいが、そこまでするには至っていない。提供側にメリットがあれば、安心も得られ、活用に向けて話が進みやすい。当初、清瀬市からは減税措置の可能性があると説明があったが、その後、減税措置は難しいと説明があった。何がだめで、どうすれば運用できるのか。財政が苦しいのはわかるが、市民の活動を活発化するため減税措置や助成・補助を出すなどの対応をして欲しい。

◆初期費用や活動費の集め方について

部会内ではファンドレイジングの検討について意見あり。今後も時間をかけて議論していく予定。社協のホームページに助成金情報を紹介するページがあると部会内で情報共有。

◆年間スケジュール表やブログについて

生活支援コーディネーターの活動している様子がわかるが、委員の参加が少ないように感じる。時間を見つけて協力できると、活動も活気づくのではないか。

ウ 第2層協議体設立に向けた進捗状況について

各第2層生活支援コーディネーターより、資料12を用いて報告。

◆森生活支援コーディネーター

- ・ 5月より継続して勉強会を実施。中心となるメンバーを固定するため、大学講師、食育サロン代表者、民生委員、学校支援コーディネーター、障害者施設関係者に対して声かけを行い、様々な分野・担当圏域内の全てのエリアから人を集め、キーパーソンになっていただくことを意識した。
- ・ 10月20日（土）に第1回目となる第2層協議体を開催。参加者間で開催日時について話し合い、毎月第4土曜日の2時～4時に開催することを

決定。地域に根差した会議とするため、中学生の参加を目指して学校支援コーディネーターと連携して学校と相談したが、先生の理解を得られず、参加にはつながっていない。現在、委員は14名。

- ・ 「多世代」「広告活動」が、これまでの議論の中でキーワード。情報共有等、第1層協議体との連携が必要な場面が今後も出てくると思うので引き続き連携したい。

◆原田生活支援コーディネーター

- ・ 7月～9月に第2層協議体設立に向けた勉強会を開催。10月26日からは、第2層協議体設立に向けた準備会として進め方のイメージなどを説明。期待する役割など、お互いに不明確な点があったことから、参加者と個別に意見交換する時間を設け、意識合わせを継続的に行っていく予定。
- ・ 次回の準備会は、11月22日の午前中に実施予定。当初は12月に第2層協議体設立の予定であったが、参加者との意識合わせを行う時間を重視して、12月はもう一度準備会とし、1月に第2層協議体設立予定。
- ・ 第2層協議体設立後は、情報共有を目的とした全体会議を2ヶ月に1度、その中で出された課題解決のための有志のプロジェクト会議を月に1度実施予定。プロジェクトの一環として、これまで意見交換を行った常設サロンの取り組みについて検討する可能性あり。
- ・ 中清戸で、毎日開いているサロンを実施できないか住民と模索中。8月より、住民や田中委員、きよせ社協地域包括支援センターと協力・連携し、空き物件や空きスペース調査を実施。物件の候補はあがったものの、修繕費用や立地、バリアフリー環境などの課題があったことから、活用は保留。別の物件においても、地域貢献としての空きスペース活用という趣旨に理解はいただいたものの、所有者からは固定資産税や光熱水費分の費用負担について希望がある一方で、貸出希望者からは費用負担の難しさや地域団体としてリスクを負うことはできないとの意見があり、調整する上での課題となった。今後もB部会と連携して空きスペース調査を実施すると同時に、団体への支援としては助成金や収益確保の相談について必要に応じて対応予定。
- ・ 住民が活動を始めるにあたり、スタートアップを支援するための助成や制度が必要と実感。今後、サロン等の市民の支え合いによる地域づくりの場を積極的に展開するために、地域の資源を活用できる視点での制度や補助の仕組みを市として整えて欲しい。

◆鈴木生活支援コーディネーター

- ・ 地域の高齢化の状況などが異なる下宿・旭が丘・中里から人を集める手法ではなく、高齢化率の高い旭が丘団地周辺地域をモデル地域とする手法で第2層協議体の取り組みを実施。
- ・ 5月に支え合い体験会を実施した後、勉強会において地域課題や不安・不足していることについて意見交換する中で、集いの場の重要性を確認。参加者よりサロンの立上げに関する希望の声があがったため、準備会を通し

て立上げを目指すこととなる。10月26日に第1回目となる「旭が丘みんなのサロン」の開催を終了し、今後は毎月1度の開催を予定。サロンのメンバーは住民の方々が担っていることから、この方々を中心に第2層協議体のメンバーとして固定。集いの場の機能として、イベントや講座などをメンバーと企画している他、1月からは資金の獲得を含めてサロンの自主運営ができるよう、メンバーと意見交換を行う予定。

- ・ 旭が丘団地内については、団地内に唯一あったスーパーが9月末に閉店。ちょうどこの時期に、きよせ清雅地域包括支援センターに移動スーパーとくし丸（運営母体いなげや）から説明があった。団地内の2つの自治会、UR、とくし丸の運営関係者に連絡を取り調整したところ、10月よりとくし丸が週に1回団地内で臨時営業、11月の最終週からは週に2回営業することとなった。高齢化が特に進んでいる団地であり、バスに乗っての買い物も困難であったところに団地内の各所で移動販売が始まったことを歓迎する意見を複数聞いている。
- ・ 下宿地域での意見交換会実施に向けて関係者と調整中。12月に準備を進め、1月中に実施を検討中。
- ・ 台田団地では、住民同士の支え合いの仕組みを自治会が検討中。具体的なスケジュールは未定だが、自治会の思いを確認しながら関わる予定。
- ・ 中里地域では、四小円卓会議が再スタートに向けたアンケート調査を実施しており、生活支援コーディネーターとしても継続して関わる予定。また、その他の地域においても関係者と調整を図り、勉強会などの実施に向けた準備を進める予定。
- ・ これら全てに共通する内容として、人や物品、お金、場所などを支援する体制が必要だと実感。今後とも第1層協議体との連携を継続したい。

エ 個人情報に関する勉強会について

鍵和田生活支援コーディネーターより、当日資料を用いて報告。内田部会長より勉強会の概要については報告があったことから、勉強会後の振り返りについて各委員の意見などを紹介。

- ・ 地域のつながりをつくるにあたり、「個人情報」がその壁になっていると再認識。壁があるから地域でつながれないとするのではなく、「取扱いに気をつけることができれば、地域でつながっていける」と伝えていくことが重要。
- ・ 協議体として意見交換会を継続して行う中で、課題に気づき、企画・実施につながった経緯あり。意見を下さった地域の方へのフィードバックという点で、実現できて良かった。
- ・ こうしたことを情報発信することで、協議体に相談すれば課題解決に向けたアクションを起こしてくれるという信頼感につながるのでは。
- ・ 勉強会の進行について、全体のスケジュールを示すなど、参加者に配慮した工夫など、改善点あり。
- ・ 質疑応答や支え合いの取り組みの紹介など、勉強会検討チームで意見交

換を重ねる中で1つ1つ調整。当日はA部会だけではなく、B部会や清瀬市、地域包括支援センター職員の参加もあり、勉強会の実施を通して、支え合いの仕組みづくりに向けて様々な団体が一丸となっている姿勢を参加者に見てもらうことができた。今後も支え合うきよせ委員会の活動周知を目的として、ホームページなどで情報発信を継続するが、今回のような勉強会の実施などを通して活動を見えるようにすることも1つの手段。引き続き、連携を継続したい。

- ・ 協議体の活動を通して人と人がつながり、地域課題が共有されるとともに、解決に向けて人が動き出している。そうした動きが見えるよう、ホームページにQRコードを設けるなど、生活支援コーディネーターや協議体の活動が住民に見えるような工夫を行っている。困りごとがある方、活動を行ってみたい方などと出会った際には、生活支援コーディネーターや協議体につながるような情報周知を委員にお願いしたい。

(5) 検討事項

ア 支え合うきよせ委員会ホームページの運用について

A部会において意見交換する中で、支え合うきよせ委員会のページが検索しづらいと指摘あり。見やすくする手段として、バナー作成について意見があり、本会で提案したいと意見があったことから議題として設定。

- 社協のホームページ内に協議体のホームページがあるが、ページの場所がわかりにくい。バナーの作成など、改善について社協と相談中。
- 最近では市報でもQRコードが掲載されているが、使えない方も多くいるのが現状。QRコードの他、社協のページから入っていくこともできるので、委員も一度確認してほしい。地域資源の情報も掲載しているので、事業所関係者も参考となるのでは。

⇒情報が見やすくなるよう、社協に対してバナー作成の対応をお願いしたい。

イ 部会や生活支援COの取り組みに関する意見交換

● 空きスペースについて

- サロン以外にも、ボランティアグループや団体が様々。中には、家賃や水光熱費の支払いが可能な団体もあると思う。市全体の取り組みとして、ホームページや市報などで情報発信してみてもどうか。

● 高齢者110

- 今回は中間まとめとして報告したが、年度内最後の2月の本会議ではまとめを提示予定。実際の取り組みは来年度以降になる見通し。

⇒サロンを行う上での後継者の課題など、既存の活動者を支援する視点も重要。今回、生活支援コーディネーターから地域課題について報告があったが、今後も生活支援コーディネーターから報告のあった地域課題に対する検討を継続していく。

(6) その他

- ・ 清瀬市企画課長より、清瀬市と市内三大学連携事業「清瀬アカデミア」について案内あり。

- ・ 清瀬市高齢福祉担当部長より、「清瀬市“つなぎ”“つむぐ”支援に関する調査報告とワークショップ」について案内あり。
- ・ 内田委員より、「芋煮会」、「PC教室」、「支え合いノート」について案内あり。

(7) 次回開催日 平成30年2月18日(月) 13:30~15:30

健康センター 第1・2会議室

※部会開催後、本会を開催する。

(8) 閉会